

伊達市 おかいこ 用具 コレクションカード Vol.2

伊達市保原歴史文化資料館では、10月より伊達の蚕糸業を主とした展示に変わります。このコーナーでは、リニューアルに向けて国重要有形民俗文化財指定を受けた伊達市所蔵のおかいこ用具をカード形式でご紹介します。

- 【あそび方】 ①切り取って集めよう（眺めるだけで楽しい！）
②説明を読んで学ぼう（展示の予習になる！）
③じゃんけん（左上）や、おかいこ度（右下）で競おう！



わらだ

お蚕様をこの中で飼育する、伊達地方の代表的な養蚕用具。昔は藁を円形に編んでいたのが「藁座」と呼ばれていたが、時代と共に「わらだ」に変化し、素材もより軽量で作りやすい竹となった。

No. 004

おかいこ度

まぶし

お蚕様が繭を作る場所。繭が作りやすいような形状に藁を編んで作られている。お蚕様が糸を吐く時期になると、人の手で「わらだ」から「まぶし」へ移される。折りたたんで収納が出来る。

No. 005

おかいこ度

さんとうかい 蚕 当 計

嘉永2(1849)年に梁川町の中村善右衛門が発表した日本初と言われる養蚕用温度計。お蚕様の飼育日数に応じた適正温度のガイド表記がされている。蚕が当たるようにと名付けられた。

No. 006

おかいこ度

伊達な 国際交流員の つれづれコラム vol.98



「神田おじさん」 Uncle James

英訳版を
見る▶



私がどうやって日本や日本語に興味を持ったのかをお話します。私には日本とオランダのハーフの神田おじさんがいます。彼は昭和14年に日本人の父とドイツ系オランダ人の母の間に生まれました。最初の7年間は太平洋戦争の影響により東京で軟禁状態で過ごさなければならず、家族はとも大変な思いをしました。その後、彼は東京大学とハーバード大学の両方に通い、私の人生のヒーローとなりました。私が小さい頃、神田お

じさんと叔母さんはよく仕事で日本に来ていました。彼らは、美しいケースに入ったマーカーセットや和柄の薄いガウンなど、お土産を必ず持って帰ってきてくれました。そこで、日本という国には特別な何かがあると感じ、ずっと訪れたいと思っていました。大学に入学し、日本語の英訳を読んだり、日本の有名な映画を見たりして、深く考えたことを紙に書き出しました。そこで、日本への興味がふつと湧き上がり、夏休みに初めて日本旅行をし、もっと日本に興味を持つようになりました。神田おじさんがいなければ、日本が私の目に留まることはなかったと思います。心から感謝しています。（イボンヌ）

にじいろのだて (男女共同参画に関するさまざまな用語を紹介)

『家族経営協定』… 家族で取り組む農業経営において、経営方針や家族一人一人の役割、就業条件・就業環境などについて家族みんなで話し合いながら取り決める協定のこと。

